



桐生ロータリークラブ週報

国際ロータリー第2840地区 2017-2018年度 国際ロータリーのテーマ

2018年



ロータリー： 変化をもたらす

ROTARY: MAKING A DIFFERENCE

R.I 会長 **イアン H. S. ライズリー**

善意というものがなければ
ロータリークラブは唯の社交クラブだ。
職業は金儲けのためでしかなく、
社会奉仕というも施しにすぎず、
国際奉仕は外交以外の何ものでもない。

パストガバナー **前原 勝 樹**

会長 **前原 勝** 幹事 **園田 誠**

クラブ会報・情報委員会

平岩千鶴子・木村洋一・山崎一順・牛腸章

1月29日号

第3055回例会

(1月22日(月)第1例会)

1. 点 鐘
2. ロータリーソング斉唱
3. 来訪者紹介
4. ロータリー情報アワー
5. 会長の時間
6. 幹事報告
7. 委員会報告
8. 卓 話
「足尾鉍毒について」
桐生市議会議員 河原井 始 様
9. 点 鐘

ようこそビジター

<卓話者> 桐生市議会議員 河原井 始 様

ロータリー情報アワー

会員研修委員長 坪井 良廣 君
『未来の年表』河合雅司:著 講談社:刊 より
日本の喫緊の課題は、4点。
1.出生率の減少 2.高齢者の激増 3.勤労世代(20~64才)の激減に伴う社会の支え手の不足 4.これらが互いに絡み合っ起こる人口減少である。まず認識すべきは、社会のあらゆる場面に影響をもたらす、これら4つの真の姿だ。本文ではそれぞれの項目を詳しく、そして根拠も提示されているので、もっと具体的に絶望してもらいたい。

会長の時間

《報 告》

- ・1/15 定例理事会
- ・1/16 RAC 新年初例会・懇親会 桐生倶楽部
会長・幹事 出席
- ・1/17 桐生5RC 会長幹事会
桐生青年会議所新年互礼会
後藤社会奉仕委員長 出席
- ・1/19 桐生女子会 田中一枝さん出席
- ・1/20 第1回地区補助金委員会
村田地区補助金委員出席

《予 定》

- ・1/27 会員組織強化・女性ネットワーク合同委員会
疋田PG出席

幹事報告

- ・米山記念奨学会より「ハイライトよねやま」が届いております。
- ・日本てんかん協会より「からっかぜ」が届いております。
- ・桐生南、桐生西、桐生赤城の各RCより週報到着。

委員会報告

出席委員会

本日の出席(平成30年1月22日)
総員65名:出席40名

ニコニコボックス

前原勝君…河原井始様をお迎えして/園田誠君…河原井先輩をお迎えして。本日は、よろしくお願ひ致します/坪井良廣君…ロータリー情報アワーをさせて頂きませう/腰塚富夫君…誕生日祝。

卓 話



「足尾鉍毒について」

桐生市議会議員
河原井 始 様

- 桐生市の水道事業の始まり 昭和7年(1932年)
- 日本で最初の公害 公害の始まりについて

○2011年3月11日東日本大震災の時の話

○梅田浄水場建設に関して

元宿浄水場 1系 昭和7年～

2系 昭和53年 40年経過

上菱浄水場 昭和45年～ 48年経過

桐生市の水道事業は、約97年前に初代市長が水道施設建設のため、東京帝国大学から中島教授を招き、調査を依頼したことに端を発します。

当時の候補地として、1.梅田地区 現在の桐生川ダムの少し下流の辺り 2.高沢川 3.元宿 渡良瀬川

に絞られました。建設費が梅田地区と元宿とで当時の金額で約40万円の差があったため、元宿に浄水場が建設されたと伝え聞いています。今、当時の候補地であった梅田地区に新たに浄水場が建設されようとしています。100億円のプロジェクトです。まさに桐生の歴史、伝統、めぐりあい100年のロマンを感じます。

水道事業は、昭和7年4月の通水以来86年が経過しています。そのため水道施設や管路網は老朽化が激しく、大規模な更新や改修が喫緊の課題となっています。水道管理面については、信頼性を保証すべく社団法人日本水道協会の「水道GLP」を取得して信頼性の確保に努めています。桐生市は他の自治体とは異なり、日本で最初の公害事件である足尾の鉍毒問題を抱えています。

渡良瀬川の上流には、旧古河鉍業(株)足尾製錬所(現古河機械金属(株)足尾営業所)があり、過去においては幾多の問題が提起されています。桐生市がこの渡良瀬川の表流水の取水を開始したのは昭和41年3月からです。それまでは伏流水を水源としていた為水質のデータは乏しく、ヒ素汚染の発生時期は明確ではありません。しかし、

群大の水質調査報告書では、すでにヒ素があり、その原因調査により、足尾製錬所の排水に原因があると指摘されています。水道局ではヒ素を除去するため実験を続け最終的に除去することになったといえます。そこで厚生省に表流水を水源とする認可申請書を提出したわけですが、ここでも群馬大学工学部の松田教授のお世話になり、認可がとれたと伺っています。

その当時、足尾町周辺は、長年の銅製錬による亜硫酸ガスの影響で山肌は露出していました。このため山の持つ保水能力は、極端に低下しており、しばしば高濁化現象が見られました。この高濁化により、昭和40年代の中頃までは高濃度の銅・ヒ素が原水中から検出され、浄水処理は大変な事でした。昭和48年(1973年)足尾銅山が閉山となり、昭和51年には、元宿浄水場上流約25kmの地点に草木ダム湖(50.5万トン)が完成しました。このダムは足尾銅山からの鉍毒水をシャットアウトする為、表面取水ゲートを採用しているため、これ以降、渡良瀬川の水質は飛躍的に安定してきています。一方、ダム湖内で昭和59年フォルミジウム(藍藻類)が増殖し水道水がカビ臭くなるという新たな問題が発生しその対策として酸気管式循環装置5基が設置され、カビ臭の発生はほとんど見られなくなりました。しかし、平成7年頃から

ピコピランクトン(微小藻類)の発生が見られ浄水処理に影響を及ぼすようになってきているのが現状です。水道水の取水割合について

1.渡良瀬川 67.7% 約7割

2.桐生川 18.3% 約2割

3.受水 7% 地下水 7% 約1割

平成14年太田市では、水道水を地下水で賄っていたが、地盤沈下の為の対策として、渡良瀬川の水を利用する、90億円かけた広沢からの導水管が完成。渡良瀬川公害の始まりは、明治12年頃のあいつぐ魚類の変死、明治22年の大洪水の発生と言われています。昭和33年に源五郎沢堆積所の沢壊により、下流の水田(特に太田市)が銅やカドニウム、ヒ素などの重金属によって被害を受け、この時に現在の渡良瀬川鉍毒根絶太田期成同盟会が設立され、土地改良事業や山元対策、良好な農業用水と安全な飲料水の確保等の促進要請のための運動を続け現在に至っています。桐生市では、同様「水質調査特別委員会」があります。その後、渡良瀬川の水質と流域住民の生活環境を保全することを目的に、昭和51年7月30日群馬県、桐生市、太田市と足尾鉍山を有する古河鉍業(株)との間で公害防止協定を締結しています。東日本大震災の影響により、源五郎沢堆積場から渡良瀬川へ堆積物が流出。3/18 桐生市議会議長名で古河機械金属代表取締役社長宛に抗議文を提出。これらのことについて当事者として述べてみます。

○3/11～3/12 水質検査

元宿取水口から鉛や重金属が発生した場合の対応

○古河機械金属(株)に対して、被害を止める様要請

○小児や病人に対してペットボトルの配布用意

夜中、検査結果が出るまで寝つけなかった。次の日から毎日足尾へ日参すると共に水質調査特別委員会の開催、地元の地震被害対応の継続、東北へは日足道路で工作車は入っていった。古河の工作車は現場優先を依頼した。停電時の非常用電源、発電機が無い。計画停電時心配。

梅田浄水場 管網の整備方法

○送水管を水道山低区配水池まで布設する

元宿浄水場と2系統となり危機管理体制が確立

○当初の概算費用 約91億円

段階的整備の概算費用 約109億円

○電気代 約500万円 元宿ポンプアップ代

○原水の差 足尾の鉍毒水・梅田の天然水

○元宿浄水場2系 昭和53年～40年経過

上菱浄水場 昭和45年～48年経過

この計画は、すぐに元宿浄水場の改修又は新設を考

えていない。

本日のお食事

本日のお花



桐生プリオパレス